

町医者だより

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器内科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話 047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器内科

令和03年11月号

ファンタスティック フォー

最近、循環器内科医が口にする言葉にファンタスティック フォーという言葉があります。英語表記すればfantastic four、四つのファンタスティックなもの??。何かというと心不全治療に使用する4つの薬剤を表しています。今月は、心不全治療薬の話です。

4つの薬剤は?

こんなおしゃれな言葉、誰が最初に使いだしたのでしょうか。循環器専門医ではないので間違っているかもしれませんが、Johann Bauersachs 先生が今年の1月にオンラインで巻頭言に発表されたタイトルに登場します。名前や所属を見るとドイツ人のようですが、ドイツ人がこんなおしゃれなこと言えるかちょっと疑問ですが、循環器科医は呼吸器科医にはない洗礼されたセンスがあると思います。

この4つの薬剤(正確には4種類の薬剤クラス)が心不全治療の治療成績を格段に上げています。それは何か。1番目にベータ・ブロッカーです。2番目はSGLT2阻害剤です。3番目がARNIで、4番目がMRAです。これらの薬物が心拍出量の低下した心不全(Heart Failure with reduced ejection fraction; HFrEF)に有効なのです。HFrEFを循環器内科医は「ヘフレフ」と発音します。後から出てきますが心拍出量が保たれている心不全(Heart Failure with preserved ejection fraction: HFpEF)を「ヘフペフ」と発音していて、専門外が聞いているとヘフレフ、ヘフペフと言葉が行きかかって面白いです。1番目の薬剤は、ベータブロッカーです。これは脈をゆっくりにする薬剤ですが、少量投与が以前から心不全の治療に用いられていて、COPDの治療にも有効なのではないかと言う事を令和1年11月号の町医者だよりでも述べています。2番目がSGLT2阻害剤です。SGLT2阻害剤はもともと糖尿病治療薬で、私も処方しています。SGLT2は腎臓の近位尿細管にある「ナトリウムグルコース共輸送体2」のことでその阻害剤は、グルコースとともにナトリウムの再吸収を抑制するため、一種の利尿剤のような働きをするため心不全の治療効果が生じるようです。3番目のARNIですが、「アーニ」と呼ばれています。アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬のことです。レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系(RAAS)とネプリライシン(NEP)を同時に阻害する薬剤ですが、レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系を阻害することで、アンジオテンシンIIによって引き起こされる血管収縮、体液貯留、交感神経活性が抑制され、降圧効果を示します。また、ネプリライシン(NEP)を阻害することで、生理活性を有するナトリウム利尿ペプチド(NP)の作用が増大し、血管拡張、利尿、尿中ナトリウム排泄、交感神経系抑制、心肥大抑制及び線維化抑制等の多面的な作用を示します。4番目のMRAはミネラルコルチコイド受容体拮抗薬で簡単に言えば利尿剤の一種です。これら4種類の薬をできるだけ可及的速やかにすべて使用した方が良いでしょう。SGLT2阻害薬のジャディアンスについては、心拍出量が保たれている心不全(HFpEF)すなわちヘフペフにも有効とする報告が今年の10月14日号のニューイングランド医学誌に掲載されていて、ますますファンタスティック フォーという言葉を目にする機会が増えると思います。ただし、専門医にお願いしたいのは、安全性の担保です。本当に下肢切断のリスクが増えないかはもちろんのこと、さらには発がんのリスクなどあまり循環器専門医になじみのない部分も注意深く診て頂きたいものです。